

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1105 2012年4月号

緑の募金で森林を元気に 「春の緑の街頭募金」

(詳細は、2頁)



緑の募金にご協力を



募金ありがとうございます



くろしお君も募金活動

「緑の募金でふせごう地 球温暖化」をスローガン に、公益社団法人高知県



の緑の街頭募金」が、四月一五日、高知市中央公園及び帯屋町商店街で行われました。出発式で、新木局長から「緑の募金活動は、一人

ひとりの志を集め森を育み、地球環境に貢献するばかりでなく、森林・林業の重要性に対する理解や関心を深める意義深い活動」との激励の挨拶のあと、ボランティアスタッフらが、「緑の募金に協力をお願いします」と大きな声で道行く人々に協力を呼びかけていました。当日は、春らしい暖かな日と、中央公園で行われている緑の週間行事と相まって、帯屋町商店街は普段以上の人通りで、子どもからお年寄りまで、多くの方から善意が寄せられました。春の募金活動は、五月三十一日まで行われており、皆様からいただいた募金は水資源の森づくりや緑



新木局長（左側）と梶原町長（右側）

三月一六日、梶原町長と四国森林管理局長との間で「四万十川源流における森林整備に関する協



の少年団の育成、国際緑化事業などに活用されることとなります。

定」を締結しました。この協定は、四万十川へ良質で豊かな水を供給するため、平成一四年に締結された協定を引き継ぐものです。

分収造林制度の活用による芹川地区国有林における整備事業の更なる推進を図るとともに、これと相まって国有林の事業を行い、将来にわたって住民の期待に沿った森林づくりを進めることを目的としています。

協定締結に当たって、新木局長からは、「森林管理局としても四万十川へ良質で水量豊かな水を供給する」という観点から重要な協定であると考えており、今後、取り組む整備事業と相まって国有林の施業を行い、将来にわたって住民の期待に沿った森林整備が進められることを期待します」との挨拶がありました。

引き続き梶原町長から、



入庁式



四月二日、平成二四年 度新規採用者三名の入庁式が行われました。

新木局長より辞令が手

渡され、入庁者を代表して、芦原さん（経理課）が宣誓を行いました。

その後、局長から、訓示があり

宣誓書を読み上げる芦原さん

林野庁職員としてスタートを切る日に当たり、「笑顔」「感謝」「前向き」という言葉が贈られます。常に「笑顔」で明るい職

「塞翁が馬」といわれるように、仕事でも良い時、悪い時があります。失敗した、うまくいかなかったからと言って、後からそれが覆る訳ではありません。起こったことは起こったこととして、分析の意味で反省は必要ですが、それをくよくよして始まりません。さらに前進するための必要なプロセス、自分にとっての貴重な勉強であったとして、現在、そして将来に



入庁式（新木局長を囲んで）

向け、「前向き」に取り組め、名実ともに「国民の
 んで頂きたいと思います。 ための森林」としていこ
 今日から皆さんは、職 うという方向であります。
 場の仲間です。 国有林に 国民に喜んでもらえるよ
 ついては、これまで「国 う、一緒にがんばってい
 民の森林」と言ってきたま きましよう。』との訓示が
 したが、さらにそれを進 ありました。

新任紹介

香川森林管理事務所長

真鍋 宏二

○昭和五三年四月

高知営林局採用

○平成二一年四月

四国森林管理局総務部
 専門官（契約適正化）

○平成二四年四月 現職

愛媛森林管理署長

阿久津 聡

○昭和五七年四月

林野庁採用

○平成二二年四月

中部森林管理局富山森
 林管理署長

○平成二四年四月 現職

四万十森林管理署長

河岡 裕

○昭和四七年四月

高知営林局採用

○平成二一年八月

関東森林管理局天竜森
 林管理署長

○平成二四年四月 現職

嶺北森林管理署長

松本 一喜

○昭和四八年四月

高知営林局採用

○平成二二年四月

四国森林管理局総務部
 総務課長

○平成二四年四月 現職

各地のたより



神奈川県 神奈川学園中

フィールドワーク

〈ふれあいセンター〉

三月七日、神奈川県横浜市の神奈川学園中学校・



高等学校から、昨年秋の高校生に続き中学三年生三九名が「四十川フィールドワーク」で訪れ、当ふれあいセンターは、初日の午後、連携する「四十十

楽舎」で木工教室を行いました。

今回は、スケジュー

ルの都合で

森林散策が

できないこ

とから、最

初にニホン

ジカによる

森林被害

の実態、滑

り、森林にも興味を持つ

た。

職員の驚きでした。

床山国有林における植生回復の取組み、森林の多様な働き、間伐の重要性などについてスライドを使つて説明し、理解を深めてもらいました。また、「この木の名前だけは」と準備したヒノキとスギの枝は、学校に持ち帰つて、触れて、臭いを嗅いで憶えてもらうことになりました。

した。続く木工クラフトでは、生徒達は長旅の疲れも見せず、慣れない手つきで製作に没頭、素材を生かした感性豊かな作品やピノキオ、ライオンなどの新たな作品も作られ、我々職員も驚きでした。

最後に職員から、「川は森林と密接に関わつており、森林にも興味を持つた。国産材を使つて欲しい。国産材を使つた木製品の利用が林業振興の手助けにもなります。将来のマイホームは木造建築で。」等々と挨拶したところ、生徒代表は「シカ

の食害や林業の大変さ、森林の大切さが分かりました。木製品の利用を心がけてくれます。」と、力強く応えてくれました。

この協定は、三好市東祖谷菅生（五郎谷）地域に所在する国有林一三二・五五haと、隣接する徳島水源林整備事務所契約地九六・七〇haをもつて共同施業団地を設定し、今後、両者が連携して低コストで効率的な作業道等の整備や森林整備を行うものです。

徳島水源林整備事務所では、国有林と接する契約地で作業道を作設して間伐を行つていますが、今後は隣接する国有林と契約地で共同して作業道等路網の整備や森林整備を進めることが効率的であることから、両者で現地検討や協議を積み重ね、協定締結に至ったものです。

協定の締結は、森林管

理

の

縮結

し

ま

し

た。

協定の締結は、森林管

理

の

縮結

し

ま

し

た。

協定の締結は、森林管

理

の

縮結

四件目となる

森林整備協定を締結

〈徳島森林管理署〉

三月一四日、当署と森

林農地整備センター徳島

水源林整備事務所は、「三

好市東祖谷菅生（五郎谷）

地域の森林整備推進に関

する協定」を締結しまし

た。

協定の締結は、森林管

理

の

この協定は、三好市東祖谷菅生（五郎谷）地域に所在する国有林一三二・五五haと、隣接する徳島水源林整備事務所契約地九六・七〇haをもつて共同施業団地を設定し、今後、両者が連携して低コストで効率的な作業道等の整備や森林整備を行うものです。徳島水源林整備事務所では、国有林と接する契約地で作業道を作設して間伐を行つていますが、今後は隣接する国有林と契約地で共同して作業道等路網の整備や森林整備を進めることが効率的であることから、両者で現地検討や協議を積み重ね、協定締結に至ったものです。協定の締結は、森林管

理局計画課川田流域管理指導官の立ち会いの下、徳島森林管理署で行われ、三谷署長と川村所長が協定書に記名・押印し、協定書を取り交わしました。

施計画に沿って路網の整備や間伐、素材生産などを行っていくこととなり、両者の円滑な連絡調整や情報共有等を行いますが、当該共同施業団地の森林整備を促進し、公益性の高度発揮や木材の安定供給などに貢献していきたいと考えています。



川村所長(左側)、川田流域管理指導官(中央)、三谷署長(右側)

業団地の設定を推進することとされておられ、当署では四件目の共同施業団地の設定となりました。

三月二十八日、祖谷のかずら橋・架け替え資材確保実行委員会(平栗春正会長)と当署との間で、木の文化を支える森(祖谷のかずら橋・架け替え資材確保の森)に関する協定を締結しました。

**木の文化を支える森
(祖谷のかずら橋・架け替え資材確保の森) 協定を締結**
 (徳島森林管理署)



平栗会長(左側)と三谷署長(右側)

国指定の重要有形民俗文化財のかずら橋は、祖谷の観光スポットとして年間三〇万人の観光客が訪れています。かずら橋の構造材は自然素材であるため、約三年ごとに架け替えを行っていますが、主な材料のシラクチカズラ(サルナシ)は、標高の高い天然林に自生しているため、これを採取することが年々難しくなっています。

せて、挿し木苗の育成や国有林への植え込み、保護などの活動を行ってきましたが、協定期間が終了するため、協定の相手方や名称、内容を見直し、今回協定を締結する運びになったものです。協定式は当署で行われ、三好市教育委員会や当署の担当者が立ち会い、平栗会長と三谷署長が記名・押印した後、協定書を取り交わしました。

このため、平成二〇年三月に当署と三好市長の間で、「祖谷のかずら橋・架け替え資材確保の森」づくり活動に関する協定を締結して、シラクチカズラの供給と併せて、挿し木苗の育成及び苗木の育苗、保育及び安定的供給について、こ



奥祖谷二重かずら橋【男橋】(橋掛け替え後)



れまで蓄積してきた知見や国有林のフィールドを活かして、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

木頭森林事務所、

移転・新築される

〈徳島森林管理署〉

三月二六日、徳島県那賀町和食郷に新築された木頭森林事務所落成式が行われました。

当署では、六つの森林事務所で県下の国有林を管理・経営しておりますが、中でも木頭森林事務所は有名な木頭林業の中心地である旧木頭村和無田に置かれ、四千ヘクタールを超える国有林・官行造林を管轄してきました。同森林事務所の旧庁舎は昭和四六年の建築で四〇年が経過し、建物の老朽化が進んでおり、建て替えが課題となっていました。

建て替えに当たっては、那賀町の中心地、和食郷に所在する町有地の一角をお借りすることができ、今回の移転・新築を迎えることができたものです。

落成式は、来賓として那賀町長、南部県民局長、地元関係者をお迎え、祈願しました。

し、森林管理局の計画部長と経理課課長補佐が立ち会う中、隣接する蛭子神社の神官が司る神事で始まり、関係者が神棚に玉串を捧げて森林事務所完成を感謝し、併せて関係者の弥栄と無災害を祈願しました。

落成式の様子



続けて、計画部長から祝辞、署長が挨拶を述べ、総務課長から森林事務所の建築の概要、森林官から森林事務所の業務の概要を説明しました。

新しい森林事務所は、県産材を多用し、

た快適で明るい事務所となっており、森林事務所は、従前同様、国有林の地元に向けた窓口としての機能を發揮することはもとより、

今後は、森林・林業再生プランが求める地域林業に寄与する拠点として大きな働きをすることになります。当署としても木頭森林事務所の移転・新築を契機に、森林官と連携しながら、国有林が果たすべき役割を十全に果たすように努める考えです。

